



小倉市大町町

西日本新聞社北九州総局
電話 五六一番、二七二番

地 産
今日のおやつ
味よせあられ 100円
百均...100円
極細めあられ 100円
百均...100円
淀の石 120円
博多大丸

踏切番と篤志家 隠れた佳話

尊い人命を冷いレールから守るため黙々と踏切番の任務を果たす警手達に、ここ三年間一日もかかさずこつこつ夜なきうどんを届けては活命を懸ける一篤志家との間に咲いた

届け続ける 夜なきうどん

すでに三年・門鉄でも近く表彰

この話題の人は市内京町二丁目一見島本線がクロスする踏切見島本住み、陶器業をいとなむ野島末次郎さん(五五)で、魚町交差点から浅野海岸通りへつぎぬける道路一帯、西部線支配人室管内随一の

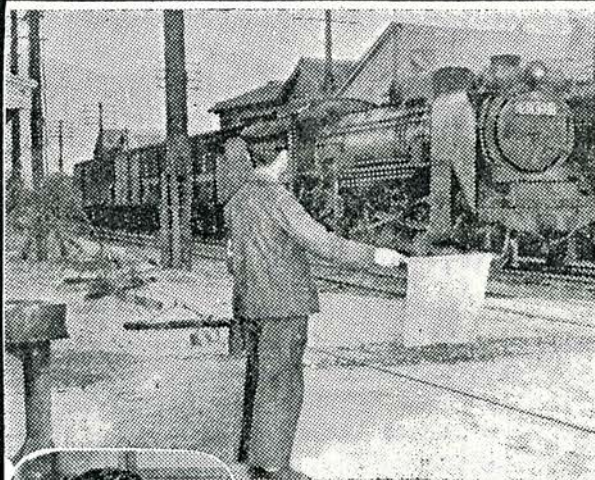
警手泣かせの踏切といわれている。野島さんは朝の散歩コースにこの十一号踏切を必ず通っている。毎朝、野島さんの胸を打つのは轟音を発して通過する列車から通行人の身を守る青年警手たちの人聞像だ。夜はハラ

ている。そして警手本来の任務を全うしようと平均五分に一回は通過する列車にこにバンドルを回し、真剣に選り取り組んでい

警手長康さん(三三)の話、野島さんは散歩の途中、一日に一度はここに立ち寄り、ねぎらってくれる。男の心情というか、ほくろも奮起せざるを得ない。うどんは野島さんがあちこち歩いてこが

一番うまいと思つものを配達させるという風で、素うどんではあるが好意に満ち満ちたものだ。さる一月謝礼の意味でわれわれ十一号警手全員十五名で野島さんを招き、座談会を開いたが、逆に接待を蒙

写真：野島さん(左)と本線浅野町踏切



門鉄、野島さん表彰

昭和二十五年なはばらから市内浅野の國鉄十一号踏切警手に、毎日かかさず夜なきうどんをおくりつづけていた市内京町二丁目踏切番野島末次郎さんの勇行はさきに話題となったが、門鉄局では部

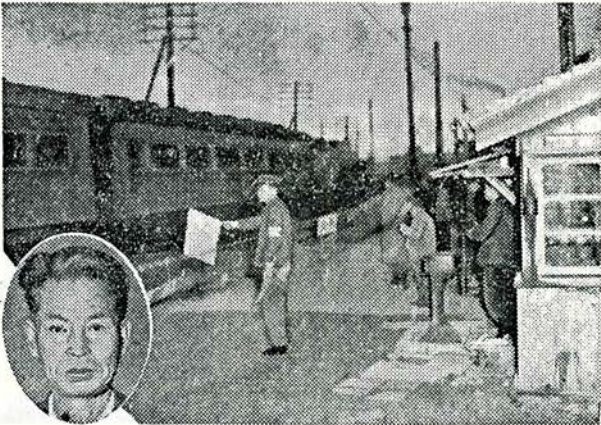
けたことになり、懇話した。坪井小倉駅長の話、野島さんの勇行は門鉄局内でも評判になってい

野島さんの話、踏切番の苦勞は大へんなもので、なにかしてやりたいという気持ちだ。夜勤者二名にうどんをおくることは費用としてわずかなもので、騒がれることはむしろ心外です。こんなもつづけていきます。

外協力者として十五日午前十二時、小倉駅長室で表彰式を行った。

門鉄から有川局長代理、今井次長、本門司駐在運輸部長らが出席、野島に出張中の野島さんに代わって辰子夫人(三三)に、野島さんの善行をたたえる丁寧な感謝状が贈られた。

雨の日も風の日も四年間 送り届けられた愛の夜なきウドン



話題の踏切と野島さん

おかげで踏切は無事故

警手らが贈り主招き感謝のパーティ

小倉市京町丁自営業商野島末次郎さん(58)が、すぐ近所を走っている鹿児島本線小倉一東小倉駅間十一号踏切に立ち寄って、大変でござすナァと贈り主に言葉をかけたのは去る二十年末のことだった。師走の木枯に吹きさらされながら警手たちは、職でずからネーと無難に安全列車通過の白旗を振って、断機を降したが、朝の放歩から帰った野島さんはつくづく「エイもんだナ」と感心し切った。同踏切は市内魚町交差点から野島公園球場に通ずる大通と鹿児島本線が交差しており、日終本線の貨車も東小倉まで同線路に集まっているため、一日の通過列車は一日上下線で三百本を越え、小倉駅運輸係から踏切警手が二名交代で二十四時間立番している。五分ほどはしゃ断

たった二パイの素うどんが……。十四人の踏切警手たちにとつては何ひとつと云がたい心の方で、野島さんにしてみれば、心の余警手さんたちにもあかなしくした。あれから四年、鉄路を守る警手たちに、高野さん、と晩も

欠かさず送り届けられた温かい夜なきうどんは、月十四日夜で打ち切られることになった。踏切がなくなると、警手たちは野島さんを日招いてささやかな感謝のパーティを開くことになった。心温まる隣人愛を新報に願う。

門司版

開門港潮(八日)
西流開始 五・五〇 一八・〇五
東流開始 二・四五 一三・三〇

たばこ抽選 門司市たばこ販賣協同組合は、十一年から同市山城町下戸野島吉太郎の年末年始抽選に、けた「出雲招待」の抽選会を行う。

機を昇降させ、道路の通行量は一列車待つだけで自動車が一十台も停るといふラッシュ。ぶりの九州一の警手立が踏切。一刻の油断も出来ないきつい現実。現場とはいいながら、鉄路を守る生命の恩人だ。野島さんはいたたまれなくなつて、近所の食堂に駆け込んだ。そして、その晩からいっばい二十円の素うどんが温かい湯気を立てながら、踏切警小屋に運ばれはじめた。高野さん。店のお得感さんから、さめ、寒夜に、野島さんの腹を温めてや、といわれ……。はじめての名も付けない、奇特な贈主を、探すのに警手たちは骨を折った。雨の夜も、雪の夜も……。こうして送り届けられる一パイの素うどんが、とうとう同踏切にまでわかれ、昨年五月十四日野島さんは辞退するのを無理に有門門鉄局長から民間協力者の花として特別感謝状が贈られた。もちろん同踏切はその後一度の事故も起さず無事故表彰を受けた。

ところが、いつまでも、一生送りの届けたいと、贈り主を交わし合つ野島さんの念願も、終止符を打つ時が来た。といふのは、新小倉駅の建設工事にもない、鹿児島本線小倉一東小倉駅間の上下高架橋路が新設され、道路と立体交差することになったのである。四年間の通断に、おかげで、と野島さん、お世話をし、と、お世話になった十四人の踏切警手たちは話し合ひ、八百四十時から、浅野町料理店

「いお助」で感謝のパーティを開き、坪井小倉駅長、大村前助役、ちもみなど二様に野島さんにお礼の記念品を贈る。野島さんの奇特な贈物には、全く頭が下を思い、いつかお礼をしようと思つて、合せていたのが、こんとお別れすることになり、ささやかながら感謝のしるしに、みんなで招待することに決めた。野島さんのような温かい隣人愛に、全国鉄の踏切警手たちは感謝のしるし、断機を振りしめていくことだろう。

野島末次郎さんの踏切より立てて感謝されるほどのことでもありません。はじめは名前も告げず、こっそり、ほんの感謝の気持ちで「サン、深夜は寒いです」と送り続けたまゝです。



この感謝を受けよ

駅長さんも参加 野島 囲むパーティ

既報「長い間大へんお世話になりました。私たちの気持ちの杯です、どうぞ一はい受け取って下さい」八日正午、小倉市津野町料理店「いほ助」で踏切警手たちが招待した「オラがオヤシ」の感謝パーティの二コマだった。

車座になって幾度もお礼を述べる駅員たちは小倉駅所属職員熊本線十一号踏切の警手十四名と坪井同駅長、大村首席助役、永動運転主任ら、鉄路を守る人々たち。クイヤ、みなさんそぞろ夜大へん、酒がさでした。鉄道踏切番を「ドン」後日物語だった。坪井駅

長は「全国鉄職員に代ってあなたに心から感謝の辞を述べたい」と固く握手、みんなで買ってきた記念の下着シャツが野島さんに贈られた。



野島さん(中央)有難うと感謝の乾杯

踏切り番人に夜食

陰の力、野島さん一家に表彰状



小倉市京間二丁目茶商野島末次郎さん(右)に有川門鉄局長が贈る表彰状が十五日小倉駅長室で局長代理今井秀長から野島末次郎さん夫人タツ子さん(左)に贈られた。

野島さん一家は二十七年十月ごろから今日まで交通量の激しい肥後島本線小倉小倉駅間の第十一号踏切の交通安全を願って朝の散歩には必ず踏切番の人たちに激励の言葉を述べ夜間勤務の人たちには名前をかくして夜食のうどんを配りたりしてその労苦をねぎらっていたもので、野島さん一家の陰の力で同線は二十七年五月から現在まで無事故の優秀成績をあげ、同日門鉄局長から表彰状を贈られたもの。写真裏は表彰される野島タツ子さん

昭和29年5月16日

「夜なきうどんの主」表彰

踏切番激励、こっそり二年間

カンカン照りの真夏、ハダさず酷暑でも毎日夜の別なく踏切を守り番人に感謝して長い間人知れずこっそり夜食のうどんを配りつづけていた街の人が十五日肥後島本線有田局長から贈る感謝状を受けた。その人の名は小倉市京間二丁目茶商野島末次郎さんである。



野島さん

このかゝれた善行は一昨年十月にさかのぼる。いつものように憂天をうけて早朝散歩に出た野島さんがフット通りがかったのが同市肥後島本線京間小倉小倉間十一号

このかゝれた善行は一昨年十月にさかのぼる。いつものように憂天をうけて早朝散歩に出た野島さんがフット通りがかったのが同市肥後島本線京間小倉小倉間十一号

踏切は「親切」です

『仕送り』続けて一年

警手を励ます野島さん

【△】肥後島本線の小倉市京間二丁目第十一号踏切は一日に平均三回五回程度の列車が通過する。警手は小倉駅へおきかき毎日入浴が勤しうして健康を維持している。おきかき毎日入浴が勤しうして健康を維持している。おきかき毎日入浴が勤しうして健康を維持している。

このかゝれた善行は一昨年十月にさかのぼる。いつものように憂天をうけて早朝散歩に出た野島さんがフット通りがかったのが同市肥後島本線京間小倉小倉間十一号

このかゝれた善行は一昨年十月にさかのぼる。いつものように憂天をうけて早朝散歩に出た野島さんがフット通りがかったのが同市肥後島本線京間小倉小倉間十一号

肥後島本線内の踏切に立つ内田さん(左)小倉市浅野の踏切を訪れる野島さん(右)

